

緑丘会札幌支部新年交礼会 有志主催 2次会報告書

H7卒 寺井 貫生

1. 開催日 平成26年2月11日(火・祝) 17:00~19:30
2. 場所 ニューオータニイン札幌「フォーシーズン」(札幌市中央区北2西1)
3. 出席者(卒年、敬称略) 99名
 - S23 小林 清 昭
 - S36 東 中 政 明
 - S36 山 田 守 之
 - S36 北 村 茂
 - S36 田 中 雄 二
 - S43 田 尾 延 幸 (直来会場から支部長挨拶)
 - S45 上 田 一 敏 (直来後途中から参加)
 - S45 山 田 二 郎
 - S49 小 山 高 史
 - S50 及 川 秀 行
 - S50 福 田 和 弘
 - S53 畑 山 邦 彦
 - S53 赤 井 撰
 - S54 福 井 芙美子 (直来後途中から参加)
 - S54 角 田 国 孝
 - S55 成 松 郁 子 (直来後途中から参加)
 - S56 八 尾 稔 啓 (講演会講師)
 - S57 福 井 郁 子 (直来後途中から参加)
 - S57 平 塚 彰
 - S57 千 坂 直 人
 - S58 瀬 戸 篤
 - S60 岡 島 敬
 - S61 吉 田 理 宏 (サプライズゲスト)
 - S62 小 西 一 郎 (幹事、司会)
 - S62 長谷山 靖
 - S62 三 浦 正 之
 - S63 長 瀬 康 司
 - S63 氏 家 正 子
 - H 1 岩 見 真 彦 (当番幹事 直来後途中から参加)
 - H 1 近 藤 小 波 (当番幹事 直来後途中から参加)
 - H 1 中 村 倫 代 (当番幹事 直来後途中から参加)
 - H 1 喜多村 悟 (当番幹事 直来後途中から参加)
 - H 1 岩 井 良 洋 (当番幹事 直来後途中から参加)
 - H 1 秋 常 英 男 (当番幹事 直来後途中から参加)
 - H 1 野 島 仁 美 (当番幹事 直来後途中から参加)
 - H 1 石 川 義 浩 (当番幹事 直来後途中から参加)
 - H 1 高 田 耕 (当番幹事 直来後途中から参加)
 - H 1 石 丸 幸 夫 (当番幹事 直来後途中から参加)
 - H 1 三 瀬 博 之 (当番幹事 直来後途中から参加)

H 1	松	下	詞	子 (当番幹事	直来後途中から参加)
H 1	池	田	い	ずみ (当番幹事	直来後途中から参加)
H 1	高	田	ひ	さ美 (当番幹事	直来後途中から参加)
H 1	谷	口	知	子 (当番幹事	直来後途中から参加)
H 1	寺	崎	由	美 (当番幹事	直来後途中から参加)
H 1	田	代	秀	東志 (当番幹事	直来後途中から参加)
H 1	伊	勢	亮	子 (当番幹事	直来後途中から参加)
H 2	谷	口	晶	彦 (当番幹事	直来後途中から参加)
H 2	渡	辺	至	宏	
H 2	山	中	利	浩	
H 3	飛	谷	正	人 (当番幹事	直来後途中から参加)
H 3	小	谷		聖	
H 4	音	無	秀	樹	
H 4	原		広	明	
H 5	八十	島		忍 (幹事)	
H 5	谷	津	法	彦	
H 5	住	出	尊	史	
H 5	荒木	関	克	己	
H 5	石	塚	直	樹彦	
H 6	三	宅	英	彦	
H 6	菊	池	正	記	
H 7	木	村	一	哉	
H 7	研	谷		敦 (幹事)	
H 7	野	村	暁	男	
H 7	寺	井	貫	生 (幹事)	
H 7	田	邊	龍	太郎	
H 7	二階	堂		学	
H 8	沢	田	隆	二	
H 8	中	島	義	行	
H 8	三	上		淳	
H 8	湊	谷	貴	幸	
H 9	吉	田		愛 (幹事)	
H 9	山	谷	智	恵子	
H 9	酒	井	秀	和	
H10	安	田	径	央	
H10	須	田	美	貴	
H11	猪	口	純	路	
H11	河	崎	智	之	
H12	百	田	希	望	
H12	石	田	絵	美	
H12	齐	藤	明	子	
H12	菅	原	枝	利	
H13	菊	地	圭	児 (3次会から)	
H16	館	崎	俊	則	
H16	栗	城	和	也	
H18	須	川	正	啓	
H21	湯	谷	拓	朗	
H22	高	橋		涼	

H22 佐藤 由希絵
 H24 遠藤 真彩 (幹事)
 H24 八日市屋 智史
 H24 寺島 佑衣
 H25 松田 康扶
 H25 後藤 智生
 H25 風間 有梨沙
 OBS 中島 成康
 OBS 阿部 哲也
 3年 吉田 匡克
 2年 阪井 亮太
 2年 澤村 東海
 1年 森 弘樹

4. 開催趣旨

昨年6月の年次大会終了後に有志で2次会を開催したのを皮切りに8月に「暑気払い会」、9月にBBQ収穫祭、12月は、女子部会のみなさんとコラボして、クリスマス会を開催しました。これは、札幌支部イベントへの参加が少ない若い世代を中心とした多くの方々に、「緑丘会」に対する関心を高めてもらいたいという趣旨で行ったものですが、いずれの有志イベントも、多くの方のご参加をいただき、「楽しかった、また参加したい」との好意的な感想を多数いただきました。

このことから、さらなる交流の場を設けて同窓生同士の親睦を深めたいということと、「有志の会」を通じて「緑丘会」への参加意識を高めてくれた方達に、ぜひ札幌支部のメイン行事である新年交礼会に参加してほしいということから、今回の2次会を企画しました。

5. 会の様子

新年交礼会の余韻冷めやらぬうちに、2次会でさらに親睦を深めたいということと、寒いからあまり外を歩きたくない(笑)ということで、新年交礼会と同じ「ホテルニューオータニ札幌」内のレストランを会場にしました。この狙いが当たったのでしょうか、事前予約の方に加え18名の方が飛び入りで参加してくれました。

・開会挨拶

昭和62年卒 小西一郎幹事長の開会挨拶でスタート。

・乾杯挨拶

これからの緑丘会を担う有望な若手の方をお願いしたいということで、小西幹事長の指名で社会人1年目の平成25年卒 後藤智生さんに。

臆することなくこの大役を見事果たされた後藤さんのご発声で乾杯し、しばし懇談に入りました。



受付にて 吉田さんと遠藤さん



後藤さんの乾杯挨拶

会場の雰囲気は、新年交礼会で一通り盛り上がったせいか、テンションも高過ぎず、かといって冷めることもなく、活気はありながらも、落ち着いた空気に包まれていて、親睦を深めるにはちょうどよかったようです。各テーブルともかなり打ち解けた様子で、様々な世代の人がテーブルを囲み、新年交礼会の話の続きに花を咲かせたり、新たな出会いを喜び合ったりする姿がありました。会が進むにつれお酒も進み、新年交礼会の会場から持ち込まれた樽酒がどんどん減っていきました。

6. 参加者のスピーチ

せっかく多くの人が集まったのだから、この場でみんなにいろいろな思いを語ってもらおうということで、小西幹事長の指名で参加者の方にスピーチをしてもらいました。

(1) 「KACHI BUS」原作者 昭和61年卒 吉田 理宏さん

まずは、サプライズゲストの登場でした。本学昭和63年卒の十勝バス 野村文吾社長の奮闘をモデルにした森崎博之さん（TEAM NACS）主演のミュージカル「KACHI BUS（カチバス）」の原作者 硬式庭球部OBの吉田理宏さんが会場に来てくれました。聞けば、当日の朝5時に幹事の八十島さんとフェイスブックで友達になり、この集まりのことを聞いて、東京から移動中に硬庭で平成1年卒の谷口さんが当番幹事だとわかり、連絡を取り、2次会の会場に駆けつけてくれたようです。翌日12日の札幌公演を控え、お忙しい中、この作品の誕生秘話を語っていただきました。

(2) 平成22年卒 高橋 涼さん

続いて、東京からはるばるご参加いただいた高橋涼さん。「今回の新年交礼会に声かけしてくれた感謝。緑丘チャンネルでも、札幌支部の最近の若手OBの動員について話題になっており、興味があったので、現地取材に来た」旨、お話しがあり、さっそくカメラを回し、その日のうちの航空機で帰京されました。緑丘チャンネルの放映日をぜひ、お知らせいただくとともに、また、札幌へお越しいただきたいと思います。



ともに東京からお越しいただいた吉田さん 緑丘チャンネル取材の高橋さん

(3) 平成9年卒 吉田愛さん

次に、北見市役所から北海道経済部観光局に出向中の吉田愛さん。道庁への出向が縁で、学生時代に面識があった同じ道庁の平成5年卒 八十島忍さんと再会し、そこから札幌支部の活動に関わるようになり、一連の「有志の会」や応援団行事などに積極的に参加してこられました。人との出会いを大切に、細かい気配りを忘れない吉田さんの人柄と行動力は、若い世代を中心に多くの人々に慕われ、札幌支部の活動を盛り上げるのに、大いに貢献してくれました。

残念ながら、この3月で出向期間が満了となり札幌を離れることとなりますので、今までのご活動に対する感謝の意を込めて、スピーチをいただきました。「この2年間、応援団をはじめ、多くの行事に参加できて楽しかったです。北見市に戻ってからもよろしくお願ひします。」そして、観光局勤務らしいこんなコメントも。「皆さんも、ツアーを組んで北見に遊びに来てください、私もいつかまた札幌に戻って来たいです。」

2年間ありがとうございました。札幌を離れても、「緑丘会」の仲間であることは変わりませんので、これからもよろしくお願ひします。

(4) 緑丘祭実行委員会委員長 阪井 亮太さん(2年)

昨年に引き続き、現役の学生が参加してくれました。代表して、緑丘祭実行委員会委員長の阪井さんにお話しいただきました。近年、緑丘祭実行委員が多いことから、今年も、大がかりな祭とするので、多くのOBが遊びに来てくれることを期待する旨の挨拶でした。



北見へ戻られる吉田さん



緑実委委員長の阪井さん

(5) 田尾支部長

今年の新年交礼会は、平成卒の参加が86名。昨年の21名からほぼ4倍になり、テーブルも昨年の2から10に大幅増となりました。

隣の部屋で開催していた、当番幹事の方との直来会場から田尾支部長がお見えになったのでご挨拶いただきました。

「今年は平成卒の参加者が多く、過去の平成卒の『記録』を破った。今年全体の参加者は290名だが、今後は1,000名参加を目標に頑張りたい。今日ご参会の皆さんも、お互いの交流を深め、人生を活性化するための場として、緑丘会を大いに活用していただきたい」と述べられました。

(6) 平成21年卒 湯谷 拓朗さん

続いては、札幌支部の中でも、最も熱い心を持つ若手のホープ 湯谷拓朗さんの登場です。自らが仕掛け人となった「小樽運河クリーンプロジェクト」の立ち上げから、平成25年小樽市都市景観賞を受賞するまでの取り組みについて語っていただきました。「私がこの取り組みを始めようと思ったきっかけは、平成23年3月11日の東日本大震災でした。被災地の復興のため、真摯にボランティアに取り組む人達を見て、自分も地域に貢献できることはないかと考えたところ、ごみ溜めのように汚れた小樽運河の姿を思い出しました。」学生時代にお世話になった小樽のまちの顔ともいえる小樽運河の無残な姿に心を痛めた湯谷さんは、これをきれいにするこそ小樽への恩返しになると思い立ち、2011年6月、何とたった一人で小樽運河の清掃を始めたそうです。ご本人は「川遊びです。」と謙遜されていましたが、毎朝4時半に運河に行き、ごみ拾いをした後、札幌市内の職場に向かい、深夜近くまで勤務し、また翌朝運河に行くという想像を絶するハードな生活だったそうです。でも、この熱い思いが多くの人の心を動かしたのです。一人だった湯谷さんのもとには、協力を申し出る小樽市民や本学の学生が次々に集まり、現在は毎週土曜日に約30名の方々が活動する一大プロジェクトへと成長しました。

「こうした人との縁が、コミュニティづくり、まちづくりにつながっていくと思います。」一人の力で、地域を変える大きな仕事を成し遂げた湯谷さんですが、決して自らの功を誇ることなく、参加してくれた人との「縁」の力を強調していました。

今後ますますのご活躍をご祈念申し上げます。



田尾支部長



若手のホープ湯谷さん

(7) 昭和50年卒 宮城支部 福田和弘事務局長 及川秀行支部長

全国の緑丘会支部の中でも、最も活発に活動している宮城支部を率いる昭和50年卒の同期のお二人、及川秀行支部長と福田和弘事務局長が遠く仙台から駆け付けて下さいました。宮城支部の方々には、8月の暑気払い会と9月のBBQ感謝祭への福田さんの参加、12月のクリスマス会へのプレゼントご提供など、常日頃から札幌支部の心強い応援団として温かいサポートをいただいています。日頃のご支援に対する感謝の気持ちを込めて、お二人からお言葉をいただきました。最初に福田さんにご登壇いただき、「今年の新年交礼会には、多くの若い世代の人が参加している。若い人の参加が増えている札幌支部にはエネルギーを感じる。緑丘会の中心である札幌支部が変われば、緑丘会全体が変わるはずだ。」との激励のお言葉をいただきました。続いて、ご登壇いただいた及川さんも、札幌支部の動向を大変気にかけてくださり、今回の新年交礼会及び2次会に多くの若手会員が参加したことを大変喜んでくださいました。「今後とも、宮城支部と札幌支部の交流を活発にしていきたい。宮城支部では、秋に芋煮会を開催しているので、札幌支部の皆さんも、ぜひ宮城に足を運び参加していただきたい。」と支部の枠を超えた交流を呼びかけるお言葉をいただきました。熱く語るお二人から、参加者一同大いに勇気と元気をいただきました。お二人の熱い心は、若手の湯谷さんに負けていません。地元仙台は、数十年ぶりの大雪だったそうですが、その熱さで雪をも溶かしたことでしょう。



左が安田さん、中央が福田宮城支部事務局長



左：福田さん、中：湯谷さん、右：及川支部長

(8) 幹事団代表 喜多村 悟さんのスピーチ+プレゼント争奪じゃんけん大会？

新年交礼会で楽しい時間を過ごすことができたのも、企画、会場の手配、当日の受付などを献身的に行って下さった当番幹事の皆さんのおかげです。今年は、昭和60年入学の20名もの皆さんが当番幹事として、この大変な仕事を引き受けて下さいました。そこで、当番幹事の皆さんへの感謝の気持ちを込めて、新年交礼会に引き続き幹事団代表 喜多村悟さんにスピーチをいただきましたが、何やら予想外の展開へ・・・

「今日のご参加いただき、ありがとうございます。今回の新年交礼会は、昭和20年代卒から平成20年代卒と非常に幅広い年代の方々が参加されました。平成卒の皆さんには、これからの緑丘会を担う人材としてよろしく頼みます」

ここで、幹事団からのプレゼント登場。緑丘会を担う人材となれるよう、自己啓発で自分を高めたいという願いから(?)、新年交礼会でご講演をいただいた昭和56年卒 八尾稔啓さんの著書『いつもの〇〇』かえませんか?—R I Vの法則でキットキット』を3名の方に!というわけで、なぜかプレゼント争奪じゃんけん大会が始まってしまいました。

その結果、激戦を潜り抜けた3名の方の手に本が渡りましたが、その中には現役学生にして第100代応援団副団長の森弘樹さん(2年)の姿も。「当たってうれしいです。読んで勉強します。」とご満悦。さすが100代!持ってるなあ〜。

7. 平成5年卒 八十島忍さん 締め乾杯挨拶

大いに飲み、語り合い、緑丘の絆を確かめ合った楽しいひと時も、気が付けばそろそろ終了時刻。残念ですが、話の続きは次回のお楽しみということで、締め乾杯へ。

会を締めるのは、第74代応援団副団長にして、この一年間小西さんと二人で「有志の会」を仕掛け、多くの参加者を呼び込み成功に導いてきた八十島忍さん。乾杯に先立ち、「有志の会」を始めたきっかけを語っていただきました。

「昨年の新年交礼会は、私が10人程に声を掛けて参加しましたが、平成卒の参加者が21名、テーブルが2つしかありませんでした。もっと若手の参加者を増やしたいという思いで『有志の会』を企画し、職場、弓道部、アドレスの分かる300人にメールし、平行してフェイスブックを使って、平成1年から12年の商大の卒業生を5,000名以上も検索し、少なくとも1,000の人に声をかけました。あまりに多くのメッセージをし過ぎて、運営者から一昨日まで30日間の使用禁止を言い渡されていました。この場に100人近くの方がおりますが、私1人では限界がありますので、本日ご参会の皆さんも、周りの卒業生の方に積極的に声をかけてください。1人が2人を連れて来て、次の年次大会、そして来年の新年交礼会になれば、参加者は1,000人になっているはずですよ」

この後、参加者一同で乾杯。若人逍遙の歌は、時間超過で歌えず、集合写真も人数が多すぎて、撮影できませんでした。



講演会講師の八尾さん当番幹事の喜多村さん



最後の挨拶をする八十島さん

8. 閉会挨拶

小西幹事長の閉会挨拶で、緑丘会札幌支部新年交礼会有志主催2次会もいよいよお開き。6月の年次大会での再会を期し、解散しました。

9. 3次会

明日は平日で仕事なので、2次会のお開きとともに、足早に家路につきました・・・とは当然ならず(?)タクシーで向かった先は、本学OBの宮尾政志さんが経営するロシア料理の店「バー ル コーシカ」(狸小路6丁目)。宮城支部からお越しの及川支部長、福田事務局長、講演会講師の八尾さんも参加を快諾してくださり、総勢19名で3次会に突入。またしても時を忘れて大いに飲み、語り合い、最終的に解散したのは11:00過ぎでした。皆さん、大変お疲れ様でした、次の日ちゃんと起きられましたか〜?(^^;)



熱唱する百田さんと盛り上がる面々



若人の口上を切る八十島さん

10. 最後に

今回ご参加くださった皆様、大変ありがとうございました。また、参加はされなくてもこの報告書を最後まで読んでくださった方にもお礼申し上げます。参加いただいた方には次回またお会いできれば嬉しいですし、これを読んで興味をもってくださった方にも、一度会場に足を運んでいただければこれに勝る喜びはありません。

本文にもあります通り、若い方の参加も増えていきますし、会場に行けば必ず素晴らしい先輩、同期、後輩の方たちと出会うことができ楽しいですよ！

次の行事は、6月14日の年次大会です。多くの皆様にお会いできるのを楽しみにしております。



2次会後に撮影できなかったので、3次会の集合写真です

以上